

『真宗聖典 第二版』

— 概要と特徴 —

聖教編纂室

二〇二四年四月

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業の記念事業として、聖教編纂室にて、1978（昭和53）年刊行の『真宗聖典』（初版）の確認を進めてきました。このたび、その確認を終え、『真宗聖典 第二版』の発刊に至りました。そこで本紙では、その確認の取り組み及び第二版の概要と特徴をお知らせします。なお、巻末には「『真宗聖典』第二版・初版各聖教頁対照表」を掲示しています。日々の間法・学習にご活用ください。

1. 『真宗聖典』確認の取り組みについて

『真宗聖典』は、「聖教が、日常生活の場で、

手に取りやすく、拝読しやすい形で提供」（『真宗』1977年5月号）されることを願いとして、1975（昭和50）年1月に真宗聖典編纂委員会を発足し、1978（昭和53）年10月に刊行されました。それ以来、40年余りの長きにわたり多くの方々にも親しまれてきましたが、その間、誤植等に関するご指摘や本文に関するお問い合わせに十分に対応できていない状況がありました。それらの課題にこたえるべく、また近年の研究成果をも踏まえ、より充実した『真宗聖典 第二版』として刊行することを目指し、聖教編纂室にて本文確認の取り組みを進めてきました。

2. 第二版の概要

『真宗聖典』の編纂当初の願いを継承し、今以上に充実をはかることを作業の基軸としていることから、第二版は収録聖教の変更などの改訂を行うものではなく、あくまで『真宗聖典』の本文の確認を中心としたものです。具体的には、これまでに誤植等のご指摘があったことから、各聖教の底本・対校本に基づく確認を行い、また、注記の充実をはかると共により見やすく、読みやすい体裁にしています。

※底 本…本文の元となる本のこと。

対校本…底本と比較し本文を補う本のこと。

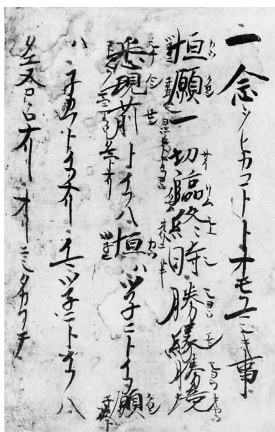
3. 具体的な作業

寺院所蔵の法宝物や書物の調査・撮影を行い、『真宗聖典』収録の聖教を底本・対校本から確認し、翻刻・校異等の基礎作業を経て、第二版

に収録する聖教の本文確定を行いました。

◆基礎作業（一例）

①底本の確認



底本／重要文化財『一念多念文意』真宗大谷派（東本願寺）蔵

②翻刻データ作成

・一念ヲヒカコトト・オモフマシキ事・

カウ クワン 恒願 一 切 サイ
ツネネカヘシ ヨロツノヒトコトワコノノムオハリニ 臨終時 勝縁勝境

シチケンセン 悉現前ト・イフハ・恒ハ・ツネニトイフ・願
コトヘシヘテワラセヘトヨリ フネニ

ネカベト

ハ・ネカフト・イフナリ・イマ・ツネニト・イフハ・
タエヌコ、ロナリ・オリニ・シタカフテ・トキ

底本と一字一句照合しながら忠実にデータ化を行っていきます。漢字やカタカナ・ひらがな、行数・字数、右訓や左訓、墨文字や朱書きの色の違いはもちろん、原典に欠損や虫損により判明できない箇所があった場合も記号に置き換え底本の通りデータ化しました。

③ 本文原案の作成

一念をひがごととおもうまじき事

「恒願一切臨終時 勝縁勝境悉現前」(往生礼讃)
というは、「恒」は、つねにという。「願」は、ねがう
というなり。いま、つねにというは、たえぬところな
り。おりにしたごうて、とき

『真宗聖典』の本文として読めるように、

方針に基づき、漢字・ひらがな表記にあらため、句読点を付します。また欠損等がある箇所については、対校本と突き合わせて、校訂作業を行いました。以降、第二版の体裁に合わせて配置し、注記や左訓等も付した本文を作成して校正を重ね、本文を確定しています。

4. 第二版の特徴

① 見やすく、読みやすい体裁に

字間・行間にゆとりをもたせ、文字を大きくし適宜改行を加えて、より見やすく、読みやすい体裁にしています。また、仮名書きの聖教に示される漢文について、『真宗聖典』では、漢文の振り仮名に平仮名で書き下し文が示されていますが(『浄土三経往生文類』など)、読みやすさを考慮し、通常の書き下し文で本文を示し、

可能な限り漢字には振り仮名を付しています。

② 研究成果を踏まえた本文に

宗派では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の記念事業として『顯淨土眞實教行證文類（坂東本翻刻）』を刊行しました。これをはじめとする様々な研究成果を踏まえて聖教の本文を示しています。例えば、本文の理解の手助けとなるよう、漢文による聖教については、可能な限り漢字を用いて書き下し、振り仮名を示しています。

③ 聖教に付される左訓を収録

宗祖の主著である『教行信証』などの漢文による著作、『三帖和讃』や『一念多念文意』などの仮名書きによる著作には、宗祖が左訓（語句の左側に言葉や文字の意味や説明を示したもの）を付されています。第二版では、より宗祖のお心につれてもらうことを願い、宗祖が付された左訓を本文と共に確認できるように工夫していま

す。また、宗祖の著作以外の聖教に見られる左訓は注記にすべて示しています。

④ 年表の充実

『眞宗聖典』に収録されている年表について、近年の研究成果を踏まえて確認を行い、各事績についての典拠や年表中に示される人物の年齢を記すなど、より充実させました。

①～③の詳細な表記方針・方法については第二版冒頭の「凡例」にて確認できます。また④については、巻末収録の年表「凡例」を参照ください。

5. 底本の変更について

『眞宗聖典』収録の各聖教本文の底本を、近年の研究成果や調査を踏まえ一部変更しました。〈底本変更聖教一覧〉

① 『仏説無量寿経』（延書）

〔上巻〕 大谷大学蔵浄土三部経延書

(上巻前半は十本校異本)

〔下巻〕 大谷大学蔵慧空書写延書本

(下巻後半は大谷大学蔵浄土三部経延書)

② 『仏説観無量寿経』(延書)

大谷大学蔵浄土三部経延書

③ 『仏説阿弥陀経』(延書)

大谷大学蔵浄土三部経延書

※以上について、第二版では、聖典本文(延書)

の底本を右のように区分して明示した。なお、上段漢文の底本は東本願寺蔵版。

④ 『顕浄土真実教行証文類』(総序・教巻)

専修寺蔵書写本↓西本願寺蔵書写本

※近年の研究により、専修寺本が宗祖83歳時点

での状況を伝えるのに対し、西本願寺本はその後の加筆された状況を伝える書写本である

ことが判明しているため、西本願寺本へと変更。なお、底本である坂東本の欠損部(総序・

教巻冒頭等)については、西本願寺本によって、本文を示す。

⑤ 『正信偈大意』

大谷大学蔵元禄三年刊本

↓慧光寺蔵実如上人書写本

※撮影調査により変更。大谷大学蔵元禄三年刊本は対校本とした。

⑥ 『夏御文』

名塩教行寺蔵書写本

↓本証寺林松院文庫蔵書写本

※本証寺林松院文庫蔵書写本が歴史上古いことから変更。名塩教行寺蔵書写本は対校本とした。

⑦ 『一念多念分別事』

大谷大学蔵端坊旧蔵本↓光徳寺蔵本

※撮影調査により変更。大谷大学蔵端坊旧蔵本は対校本とした。

⑧ 『後世物語聞書』

西本願寺藏蓮如上人書写本

↓ 専修寺藏定専上人書写本

※撮影調査により変更。西本願寺藏蓮如上人書写本は対校本とした。

◎各聖教の底本・対校本については、第二版巻末収載の付録「解題・校注」にて確認できます。参照ください。

6. 第二版刊行にかかる対応について

① 聖典からの引用について

第二版刊行後の東本願寺出版発行物に掲載する『真宗聖典』を根拠とする出典表記は、『真宗聖典 第二版』に準じ、第二版刊行以前の出版物につきましては、重版時に検討を行った上で対応します。

② 「真宗聖典検索サイト」の更新について

第二版の発刊に合わせ、「真宗聖典検索サイト」を第二版及び初版の文言や対応する頁数を検索できるようにバージョンアップします。

真宗聖典検索サイト

検索



『真宗聖典 第二版』の購入・お問い合わせは
東本願寺出版

〒六〇〇—八五〇五

京都市下京区烏丸通七条上る

Tel : 075-371-9189 Fax : 075-371-9211

(※平日9時～17時 (土日祝を除く))

Mail : shogyohensan@higashionganji.or.jp



『真宗聖典』第二版・初版各聖教頁対照表

- (一) 本対照表は、『真宗聖典 第二版』の目次を基に各聖教の第二版・初版の対照頁を示したものです。
- (二) 「凡例」及び「目次」並びに「付録」収載の項目については、頁数を示していません。
- (三) 詳細な頁の対応については、「真宗聖典検索サイト」をご利用ください。

聖教名	第二版 頁	初版 頁
仏説無量寿経（大経）	1～95頁	1～88頁
仏説観無量寿経（観経）	97～133頁	89～123頁
仏説阿弥陀経（小経）	135～144頁	125～134頁
無量寿経優婆提舍願生偈（浄土論）	145～156頁	135～145頁
帰三宝偈（勸衆偈）	157～158頁	146～148頁
顕浄土真実教行証文類（教行信証）	159～476頁	149～401頁
浄土文類聚鈔	477～502頁	402～422頁
愚禿鈔	503～541頁	423～459頁
入出二門偈頌文	543～552頁	460～467頁
浄土三経往生文類	553～564頁	468～475頁
如来二種回向文	565～567頁	476～477頁
浄土和讃	569～588頁	478～489頁
高僧和讃	589～607頁	489～500頁
正像末和讃	609～626頁	500～511頁
尊号真像銘文	627～652頁	512～533頁
一念多念文意	653～669頁	534～546頁
唯信鈔文意	671～686頁	547～559頁
親鸞聖人御消息集（広本）	687～712頁	560～582頁

御消息集（善性本）	713～725頁	583～593頁
親鸞聖人血脈文集	727～733頁	594～599頁
末燈鈔	735～745頁	600～609頁
御消息拾遺	747～751頁	610～614頁
恵信尼消息	753～765頁	615～625頁
歎異抄	767～786頁	626～642頁
執持鈔	787～792頁	643～648頁
口伝鈔	793～824頁	649～676頁
改邪鈔	825～847頁	677～696頁
浄土真要鈔	849～878頁	697～723頁
本願寺聖人伝絵（御伝鈔）	879～893頁	724～737頁
報恩講私記（式文）	895～900頁	738～743頁
嘆徳文	901～903頁	744～746頁
正信偈大意	905～919頁	747～759頁
御文	921～1014頁	760～845頁
夏御文	1015～1020頁	846～850頁
御俗姓	1021～1022頁	851～852頁
改悔文	1023頁	853頁
蓮如上人御一代記聞書	1025～1091頁	854～915頁
唯信鈔	1093～1111頁	916～929頁
後世物語聞書	1113～1120頁	930～936頁
一念多念分別事	1121～1124頁	937～939頁
自力他力事	1125～1127頁	940～942頁
安心決定鈔	1129～1149頁	943～960頁
横川法語（念仏法語）	1151頁	961頁
一枚起請文	1153頁	962頁
十七条憲法	1155～1158頁	963～966頁